

陽の里

発行 平成27年10月15日



社会福祉法人 新生会
総合ケアセンター サンビレッジ
〒503-2417 岐阜県揖斐郡池田町本郷1501番地
TEL (0585) 45-5545(代)
URL <http://www.sun-village.jp/>

No.125

テーマ まちづくりを考える(福祉一貫教育)



▶片麻痺での衣類着脱体験

池田中学校での福祉教育



岐阜県揖斐郡池田町立

池田中学校

教頭 谷口 正明

池田中学校では福祉教育について、今年度は大きな2つの柱「専門的な福祉教育の導入」と「福祉活動の実践」を行っています。1つめの柱は、サンビレッジ国際医療福祉専門学校との連携による、本格的で系統的な福祉教育の導入です。この取組は、1年生の270名全員が「総合的な学習の時間」で1ヶ月間にわたり、連続で4回の福祉講座を受講しました。

2つめの柱は池田中学校の「福祉活動の日」と「全校福祉の日」の設定と取組です。池田中学校の「福祉活動の日」は、生徒会・福祉部を中心にして池田町内の福祉施設での様々な福祉活動を実施する日です。また、池田中学校の「全校福祉の日」は全校生徒が、全校活動として、池田町内クリーン活動・リサイクル活動をする日です。

さて、池田町の子どもたちはすべて池田中学校で学習をします。たとえば30年後に今の生徒は大人になり、父親、母親になり、その子どもたちも池田中学校です。福祉について専門的な学習と実践をした人々の町、思いやりの心をみんなが持っている池田町になってくれればと思います。さらに、福祉について、もっと深く学習したい、福祉方面で働きたいと思う生徒も出てくるでしょう。その生徒は、次なるステップで、池田町にあり積極的に活動してみえる池田高校へ、そして、サンビレッジ国際医療福祉専門学校へとつながりもできてくるでしょう。さらにそこで学んだ生徒が池田町の福祉施設等で中心になって働いていくこともあると思います。

生徒が思いやりの心を持ち、池田町の方々と共に支え合い、共に幸せに生きていけるようになってほしいと思います。

「まちづくりをきえる」

池田町

アイデア工房会議に

参加して

社会福祉法人 新生会

法人本部 馬淵規嘉

「あなたのアイデアを池田町でのまちづくりに活かしてみませんか？」と町の公募にて集まった人々とのワークショップ。人口減少社会に突入した現在、池田町で「活力のあるまち」「人が集まる魅力あるまち」になることを目的に7月から5回にわたりワークショップが開催されました。私の参加する「アイデア工房会議」では、産業・観光・教育・福祉・移住定住の5つのグループで議論を交わし、課題から空家に人が集まる多世代カフェ、子どもたちが生きる力をつける職業体験など新たなアイデアを通じて「住みよい池田町」を住民の手で考える提案を行いました。

福祉の現場で長年様々な仕事をしていますが、住民の方や他分



▲池田町アイデア工房会議

野で活躍される方々の意見から、立場・視点が違えば色々なアイデアがでてくることに気づきます。これは介護の仕事でも同じで、見る視点が違えばいろんなアイデアに気付くことができます。アイデア工房会議は限られた5回のワークショップです。住民の意見から出たアイデアを取りいれ実践していきます。プランを実施するためには多くの人が目的を一つに連携をすることが必要です。今回参加し、それぞれの立場でまちづくり

を考えるきっかけになりました。皆さんも自身が暮らすまちの魅力や課題を一度考えてみてはいかがですか？

池女会に参加して

サンビレッジ新生苑

チーフ 佐藤春奈

今回私は「アイデア工房会議」と同時に始まりました「池女会」に参加させて頂きました。池女会とは町内外を問わず子育て世代の方を対象とした女性が集まり、「結婚」「出産・子育て」「日常生活」について話し合う会です。5人程度のグループとなり、それぞれのテーマについて話をしていきます。現在仕事をしている人や子育て真っ只中の人、異なる環境で暮らしている人達という色々な視点で同じ「池田町」を見るという事から、課題を出していく中でもたくさんの意見が出ました。課題が出た後、このままの状態でも5年・10年と経つと池田町がどのようなかわかっていってしまうのかという所まで考え、みんなの気持ち「何とかして変えなければ！」

との方向に向き、今はテーマ別にプロジェクトが動いています。1回の開催は3時間、全部で5回の開催しかありません。その限られた会の中で、自分たちが考えたプロジェクトが動き出していけるように活発な意見を出し合う。そして自分たちの意見が行政の力と一緒に町をより住みやすい環境に出来るよう、取り組んでいます。池田町の広報やホームページにて進捗状況が載っています。またぜひ皆さん、池田町ホームページの中身をご覧ください。



▶池女会

池田町のホームページ <http://www.town.ikeda.gifu.jp/>

「しんせい語録」の読み解き

よく死ぬことは
よく生きることに



新生メディアカル瑞穂営業所

ケアマネジャー 石原美津子

人は生まれ、みな最期の時を迎えます。

その人らしく住み慣れた所で最期まで暮らして頂くため、介護が必要になった時に支援させて頂くのが私たちの役割です。

難病で自力での歩行が困難な利用者がみえました。それでも「何とか 自分でトイレに行きたい」と自宅で懸命にリハビリに取り組みれていました。デイではスタッフとの会話や手作りのパンを楽しみにされたり、妻や知人との食事会にも出かけられてたのしんでおられました。病状が悪化し入院となった時も自ら「最期は自宅で過ごしたい」と選択され、在宅で本人の望む生活を家族と共に

に支援を行いました。残される家族を気遣い、告別式の段取りもご自分で考え、退院から六日目に穏やかに旅立たれ、デイで撮った笑顔の写真が遺影となりました。

数週間後の訪問時、妻から

「孫が毎日お経をあげ、嫁からは『お義父さん、最期まで立派だった』と言われた。」と話を伺いました。家族を思い、悔いのないように精一杯生きてこられた結果であり「よく死ぬことはよく生きること」と実感しました。



▶穏やかな笑顔をありがとう



新生グループには日めくりカレンダー「しんせい語録」があります。語録には介護現場で感じたことや学んだことへのヒントが掲載されています。

失敗は宝



サンビレッジ大垣
リーダー 石田奈緒子

「95歳までは元気にいききたいな」と七夕の短冊に願いを込め、自分の事は自分で行う、日課の体操には毎日参加する。又戦争体験、昔の仕事の話等、沢山の経験談を教えて下さる人生の大先輩がおられます。その方が病気で入院、治療後退院してこられました。痩せられ、表情にも活気がなく、「まああかんわ」と弱音を吐かれる姿が頻繁にあり「少しでも早く本人らしく生活を送って頂きたい」との思いで、本人、家族の思いを聞き皆で一つの目標に向かいケアを行っていききました。排泄時、身体に負担が無いよう夜間ポータブルトイレを使用はどうか考え試しました。しかし本人は以前の様に変わらずトイレに行かれます。では安心してトイレに行く為にはどうし

たらよいか？まず何が困難になつているのか観察します。夜間の排泄時間・ドアが認識しやすい様に居室電気を少し明るくする。足元にセンサー付の電灯をセットしドアまでの道を分かりやすくしてみる等試しました。電気は明るすぎて寝れない等失敗する事もありました。しかし、次のケア内容を観察し、再度皆で検討します。その繰り返しですがトイレでの排泄を可能にしました。

1人ではケアは行えません。沢山の仲間と共に考え、悩み、ケアの方法を見出す事で失敗が成功へと繋がり、そしてその過程が『宝』になると実感しています。



▲いつも寄り添えるように...

vol.11
「サンビレッジの仲間たち」

サンビレッジフーズ リーダー 村瀬絵美

サンビレッジに入社し、栄養士として勤めて4年目になります。私が栄養士になりたいと思った理由は、「何よりも食べることが好き」という自分の特性を踏まえて、食のプロフェッショナルになりたいと思ったこと、医食同源という言葉にあるように食べ物本来の力と美味しい食事を食べることので得られる幸福感から、健康な体をつくるお手伝いができたらという想いからでした。

サンビレッジフーズは法人直営の厨房で、ご利用者の生の声や「おいしかったよ」の言葉を直接頂ける恵まれた環境にあり、それが日々の励みなり、おいしい食事を届けるために、同じ料理でも盛り付けの仕方や器、温度、または食べる方の味覚の違い、身体状況の違い、精神面、食べる環境でもおいしさは変化し、専門性の奥深さも感じています。

また、フーズが行っている配食サービスはご希望があればどなたでもご利用できるサービスです。在宅の環境はそれぞれ違いますが、配達場所や時間、安否の確認等、本人・家族・ケアマネジャーと話し合い、試行錯誤しながらお弁当を届けしています。お互いの想いが合致しない場合は、納得行くまで話し合いを重ね、その結果継続してお弁当を取って頂いている姿を見ると、私達の食事で生活を支えられることができたという喜びを感じています。今後も直営の強みを生かした温かみのある食事サービスを追求していきたいと思っています。



メニューを書いたボードを皆さんが毎日楽しみに見に来られます

トピックス

第3回 ビアガーデン

今年もサンビレッジほづみ駅前では、ビアガーデンを開催しました。今年も家族を始め、近所の方など多くの方に足を運んでいただきました。子どもの数も去年と比べて、倍近く遊びに来てくれました。

更に今年はトランペットの演奏やフラダンスのボランティアの協力もあり、より賑やかな雰囲気となりました。入居者の方はお孫さんの姿や家族の元気そうな顔を見て、家族は元気そうなお父さんお母さんの姿を見て、お互い自然と笑みがこぼれます。

サンビレッジほづみ駅前のビアガーデンが、家族の寄り合う機会また地域のひとつの行事として根付けるよう、これからも続けていきたいと思っています。



ビアガーデンで夏の夜空を楽しみました

ストリングカルテット響
チャリティーコンサート

演奏者

- Violin 大宮臨太郎 (NHK 交響楽団)
- Violin 宇根京子 (NHK 交響楽団)
- Viola 亀井彩乃 (南西ドイツ放送交響楽団)
- Violoncello 長瀬夏嵐 (群馬交響楽団)

ストリングカルテット響 チャリティーコンサートが8月9日(土) 岐阜シティタワー43 1階アトリウムに於いて開催されました。コンサートは、東北復興支援の一環で3回目となります。予約数の80席を超え、90人以上の来場者が、ストリングカルテット響4人の息の合った演奏、音色にうっとり聞き惚れ、大盛況でした。ご協力ありがとうございました。